

私たちは地域・職域・学校など、生活のいろいろな場面で「健康寿命」をのばす運動を実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部

発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402
東京都新宿区市谷砂土原町1の2
保健会館 電話 03(3269)1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料 300円(1部30円)

● 今月の主な紙面 ●

〈1面〉●「これからの生涯健康管理」でシンポ
—第80回日本産業衛生学会より

〈2～3面(見開き)〉

- 話題 中高生、大学生、若年成人
大人がかかる麻疹(はしか) その予防と対策
- 連載 子宮がん検診をめぐる 第3回
- 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ
続・実践編 第3回

〈4面〉●質の高い乳がん検診めざし—第3回読影医のための

- マンモグラフィ読影勉強会を開催
- 第110回日本小児科学会学術集会が京都で開催
- 全衛連の精度管理調査で最高位の評価・本会
- 連載 保健会館クリニックの顔 第9回
- お知らせ

「これからの生涯健康管理」 でシンポ 第80回 日本産業衛生学会より

地域職域連携、小規模事業場対策、 高齢労働対策の進め方などを討議

「標準的な健診・保健指導プログラム」の具体的な実施内容が決まり、いよいよ来年度から医療保険者による「特定健診・特定保健指導」がスタートする。これまでの、疾病の早期発見・早期治療に重点をおいた健康管理から、生活習慣病予防のための保健指導を中心とした健康管理へと産業保健のあり方が大きく変わろうとしている。こうした中、4月25日から27日の3日間、にわたって第80回日本産業衛生学会(企画運営委員長 園藤史夫大阪府立大学大学院教授)が大阪で開催され、「ハイリスク社会と向き合う産業保健活動」をメインテーマに、多くの講演やシンポジウムが行われた。今回はその中から、シンポジウム「これからの生涯健康管理」(座長 東昭昭産業医科大学教授、武田和夫京都工場保健会診療所所長)の概要を紹介する。

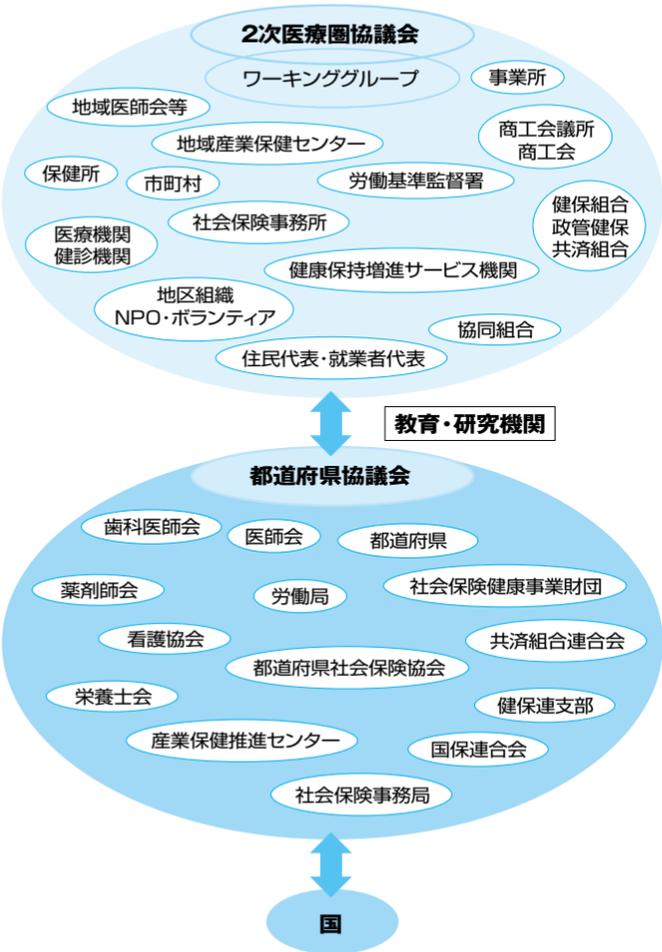
シンポジストとして最初に講演した聖マリアンナ医科大学の吉田勝美教授は、「地域職域保健連携によるこれからの健康管理」と題した講演で、「従来の保健事業は、根拠となる法律により、労働安全衛生法や老人保健法などに分かれて提供されており、制度間のつながりがなく、制度間の地域全体の健康状況を把握できなかつたり、離職時や転職時に個人が受けている保健事業が途切れるといった問題が指摘されていた。そのため、制度を超えて保健事業を活用していくことが検討されてきた」として、地域職域連携による保健事業の重要性について次のように述べた。

「地域保健と職域保健で問題点や保健資源を共有し、蓄積した方策を互いに提供し合うことで、従来の縦割りの自己完結的な保健事業ではなく、生涯を通じた継続的、包括的な対策を講じることが可能となり、個別に行っていた段階とは異なる、より適切な保健サービスを提供することができるようになる。来年度より導入される特定健診・特定保健指導は、生活習慣病予防のための新たな保健策として期待されているが、この施策を効果的に実施するために、地域保健と職域保健との事業連携をさらに推進していくことが重要となる」と述べた。

医療圏の代表者が動きやすいように都道府県にはそれぞれの団体の上部団体が入っている。またサービスを受ける側のニーズを確認することが重要であるとの判断から、住民代表・就業者代表が入っていることも大きな特徴である」と述べた上で、「保険者を中心とした特定健診・特定保健指導が推進されるためには、保険者の代表者からなる労働衛生機関だけでは解決できない問題も多く、健診以外の産業保健サービスの促進や補助金制度の拡充など行政の指導的役割が求められる。フランス、フィンランドなど先進的に取り組んでいる諸外国の制度を研究し、企業外労働衛生機関の質の向上を図る必要がある」と述べた。

また、産業医科大学の神代雅晴教授は、「少子高齢社会を迎えた日本の高齢労働対策の進め方」と題して講演し、「高齢労働者が参加しないと社会・経済が維持できなくなっている現状を踏まえ、高齢労働者に対して心身の健康と、就労能力と労働条件とのミスマッチを防ぐためのノウハウを提供することがこれからの産業保健の役割である。そのために高齢労働者の人的資源を定量的に把握し、労働能力を客観的に評価できる手法が必要となる」と述べ、産業保健人間工学の立場から、少子高齢社会に対応する産業保健戦略と、労働能力を評価するための方法について説明した。

図 地域職域連携推進協議会(概念図)



シンポジウムではこのほか、HOYAの小林祐一統括産業医が「健康情報の活用と健康支援の仕組み」、東京ガスの澤田亨氏が「企業におけるヘルスプロモーション活動」と題して講演し、九州ヒューマンメディア創造センターの八幡勝也准教授が「生涯健康管理・活用に必要な情報技術の動向」と題して指定発言を行った。

個人情報取扱について

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は(予約制)
電話 東京(03)-3269-1141
健康管理コンサルタントセンター

事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会

◆◆ コンサルテーションのごあんない ◆◆

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 7月 4日 岡 惺治(健康管理コンサルタント) | 9月 5日 岡 惺治 |
| 11日 第214回ヘルスケア研修会につき休み | 12日 三輪祐一 |
| 18日 岡 惺治 | 19日 岡 惺治 |
| 25日 三輪祐一(東京都予防医学協会総合健診部長) | 26日 第215回ヘルスケア研修会につき休み |
- 《8月は夏休み》

質の高い乳がん検診めざし

第3回 読影医のためのマンモグラフィ読影勉強会を開催

わが国の女性の乳がん罹患のトップである乳がんの年間診断者数は約4万人。中でも、40歳から50歳の乳がん発生率は、この20年間で約2倍に増加しているといわれる。また、乳がんで亡くなる女性は年間約1万人に達し、40歳代から50歳代の働き盛り世代の女性では、最大のがん死亡原因となっている。こうしたことから、死亡率減少に有効な質の高い検診の整備、検診の事業評価といった、国をあげた対策が急速に進んでいる。こうした中、本会では角田博子聖路加国際病院放射線科医長を講師に招き、4月19日、第3回読影医のためのマンモグラフィ読影勉強会を本会第3健診センターで開催した(写真)。

本会では、2002年にマンモグラフィを乳がん検診に導入し、乳がん検診の体制整備を進めるとともに、2004年9月には乳がん検診精度管理委員会を立ち上げ、精検結果の把握や、マンモグラフィ読影医に対するフィードバックを徹底し、がん検診の質の向上にも力を入れてきた。そうした取り組みの一環として行った、第3回読影医のためのマンモグラフィ読影勉強会には、乳がん検診の読影を担当している医師をはじめ、本会の小野良樹医務局長、放射線部、生理機能科、母子・地域保健課など関連部署のスタッフ約30人が参加した。



今回の読影勉強会では、角田医長による解説が行われ、精密検査や経過観察の診断基準、読影時の注意点などについて活発な意見交換がなされた。また、角田医長によるミニレクチャー「マンモグラフィ読影のポイント」では、乳がんを見落とさないためのテクニク、読影のコツなどが詳細に解説された。

今回の読影勉強会では、角田医長による解説が行われ、精密検査や経過観察の診断基準、読影時の注意点などについて活発な意見交換がなされた。また、角田医長によるミニレクチャー「マンモグラフィ読影のポイント」では、乳がんを見落とさないためのテクニク、読影のコツなどが詳細に解説された。

保健会館 クリニックの顔



小児腎臓病相談室 村上睦美 医師

小児腎臓病と小児保健を専門とする村上睦美医師は、日本医科大学名誉教授として腎疾患の診断や治療、研究に携わってきた。学校検尿の指導にも力を注いできた。また、現在は日本小児保健協会会長として小児保健の普及にも取り組んでいる。

村上睦美医師は、小児腎臓病相談室について次のように語る。「当相談室では、学校の腎臓検診で要経過観察・要受診とされた子どもたちを対象に、『あまり気にする必要はないけれど、身長伸びが止まるまで経過観察を続けてほしい』と話しています。村上睦美医師の趣味は、読書とゴルフ。とくにゴルフは「雨にも負けず、花粉症にも負けずに楽しんでいる」とか。

要となるのは約5%に過ぎませんが、血尿陽性の子ども全員に精密検査はできません。そのような子どもには経過観察が必要になります。子どもたちに負担をかけずに経過観察を行い、食事・運動などの指導をしていくことが相談室の役割の一つだと考えています。腎臓の病気が長く経過をみるのが重要ですので、子どもたちには『あまり気にする必要はないけれど、身長伸びが止まるまで経過観察を続けてほしい』と話しています。

第110回日本小児科学会 学術集会在京で開催

4月20日から3日間、京都国際会館で、日本小児科学会(会頭 杉本徹京都府立医科大学教授)が開催された。本学会のテーマは「小児科が果たしてきた功績と更なる飛躍」で、これに最もふさわしい講演は、藤原哲郎岩手医大名譽教授の「新生児呼吸窮迫症候群(RDS)に対する人工サーファクタント補充療法」の学会賞受賞講演であった。私も小児科医になつた1950年代は、RDS

Sは原因不明の致死的な難病とされていた。1959年に米国のAveryらが、未熟児に多い本症は、肺胞の拡張に必要なサーファクタントの欠乏によつておこるとの説を唱えた。1962年から米国でRDSの研究を始めた藤原名誉教授は、この説が正しいことを知り、サーファクタントを投与してRDSを治療しようと考えた。帰国後に天然サーファクタントを有機溶媒

で処理して、10年間の準備期間を経て親水性蛋白質を国の新生児マススクリーニングの追跡調査など、世界に誇るシステムで実施され、年間36億円の純利益が得られていると報告した。しかし、最近個人情報保護のため追跡調査が困難になり、スクリーニング事業の一般財源化で検査に地域格差が生じ、成人となった患者の生活支援に問題がみられると指摘した。

原田正平国立成育医療センター研究部長は、内分泌疾患スクリーニングの問題点と今後のあり方について、山口清次島根大学教授は「わが国の新しい新生児マススクリーニング体制作り」と題してタンデムマスによるスクリーニングのあるべき姿について講演した。次いで重松陽介福井大学教授は、タンデムマスによる試験的スクリーニングで発見された症例は適切に治療されており、検査の疑陽性率は低下し、精度も上昇している現状を報告した。

全衛連の精度管理調査で 最高位の評価・本会

全衛連は、10年間の準備期間を経て1977年に開始されたわが国の新生児マススクリーニングは、検査技術の開発と改善、症例の追跡調査など、世界に誇るシステムで実施され、年間36億円の純利益が得られていると報告した。しかし、最近個人情報保護のため追跡調査が困難になり、スクリーニング事業の一般財源化で検査に地域格差が生じ、成人となった患者の生活支援に問題がみられると指摘した。

原田正平国立成育医療センター研究部長は、内分泌疾患スクリーニングの問題点と今後のあり方について、山口清次島根大学教授は「わが国の新しい新生児マススクリーニング体制作り」と題してタンデムマスによるスクリーニングの追跡調査など、世界に誇るシステムで実施され、年間36億円の純利益が得られていると報告した。しかし、最近個人情報保護のため追跡調査が困難になり、スクリーニング事業の一般財源化で検査に地域格差が生じ、成人となった患者の生活支援に問題がみられると指摘した。

お知らせ

第214回ヘルスクエア研修会 7月11日(水)午後2時~4時 東京・永田町「星陵会館」 第214回ヘルスクエア研修会が7月11日(水)午後2時から4時まで、東京・永田町の「星陵会館」で開かれる。「加齢と食育」をテーマに、共立薬科大学の柴崎敏昭教授が講演する。司会は、本会健康増進部の鶴田浩子管理栄養士。

健康教育者のためのスリーデイセミナー07

8月3日(金)~5日(日) 千葉・柏市 麗澤大学 日本健康教育士養成機構が主催する「健康教育者のためのスリーデイセミナー07」が8月3日(金)から5日(日)まで、千葉・柏市の麗澤大学で開かれる。「メタボリックシンドロームに着目した協働と連携」生涯にわたる生活習慣病の予防の進め方」をテーマに、講義やワークショップなどが行われ、実践健康教育士のための4単位が認定される。

加齢と食育

7月11日(水)午後2時~4時 東京・永田町「星陵会館」 第214回ヘルスクエア研修会が7月11日(水)午後2時から4時まで、東京・永田町の「星陵会館」で開かれる。「加齢と食育」をテーマに、共立薬科大学の柴崎敏昭教授が講演する。司会は、本会健康増進部の鶴田浩子管理栄養士。

健康教育者のためのスリーデイセミナー07

8月3日(金)~5日(日) 千葉・柏市 麗澤大学 日本健康教育士養成機構が主催する「健康教育者のためのスリーデイセミナー07」が8月3日(金)から5日(日)まで、千葉・柏市の麗澤大学で開かれる。「メタボリックシンドロームに着目した協働と連携」生涯にわたる生活習慣病の予防の進め方」をテーマに、講義やワークショップなどが行われ、実践健康教育士のための4単位が認定される。

わしい講演は、藤原哲郎岩手医大名譽教授の「新生児呼吸窮迫症候群(RDS)に対する人工サーファクタント補充療法」の学会賞受賞講演であった。私も小児科医になつた1950年代は、RDS

Sは原因不明の致死的な難病とされていた。1959年に米国のAveryらが、未熟児に多い本症は、肺胞の拡張に必要なサーファクタントの欠乏によつておこるとの説を唱えた。1962年から米国でRDSの研究を始めた藤原名誉教授は、この説が正しいことを知り、サーファクタントを投与してRDSを治療しようと考えた。帰国後に天然サーファクタントを有機溶媒

で処理して、10年間の準備期間を経て親水性蛋白質を国の新生児マススクリーニングの追跡調査など、世界に誇るシステムで実施され、年間36億円の純利益が得られていると報告した。しかし、最近個人情報保護のため追跡調査が困難になり、スクリーニング事業の一般財源化で検査に地域格差が生じ、成人となった患者の生活支援に問題がみられると指摘した。

原田正平国立成育医療センター研究部長は、内分泌疾患スクリーニングの問題点と今後のあり方について、山口清次島根大学教授は「わが国の新しい新生児マススクリーニング体制作り」と題してタンデムマスによるスクリーニングの追跡調査など、世界に誇るシステムで実施され、年間36億円の純利益が得られていると報告した。しかし、最近個人情報保護のため追跡調査が困難になり、スクリーニング事業の一般財源化で検査に地域格差が生じ、成人となった患者の生活支援に問題がみられると指摘した。

原田正平国立成育医療センター研究部長は、内分泌疾患スクリーニングの問題点と今後のあり方について、山口清次島根大学教授は「わが国の新しい新生児マススクリーニング体制作り」と題してタンデムマスによるスクリーニングの追跡調査など、世界に誇るシステムで実施され、年間36億円の純利益が得られていると報告した。しかし、最近個人情報保護のため追跡調査が困難になり、スクリーニング事業の一般財源化で検査に地域格差が生じ、成人となった患者の生活支援に問題がみられると指摘した。

血圧脈波検査と心電図検査がひとつになって誕生

血圧脈波検査装置 **VaSera VS-1500E**

医療機器承認番号：21800BZX10162000

血管の硬さを示すCAVI、血管の詰まりを示すABI、2つの指標からなる血圧脈波検査と、国産心電計のパイオニアであるフクダ電子の心電図検査を融合させたバセラVS-1500Eの誕生です。生活習慣病・メタボリックシンドロームの病態把握と、治療の動機づけにお役立て頂けます。血管性疾患予防の時代ともいわれる21世紀に対応した、先進の一台です。

新登場

113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp/>
 お客様窓口… ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月~金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00~18:00
 ● 医用電子機器の総合メーカー **フクダ電子株式会社**

